

Library News



大山崎中学校 図書室

令和6年 6月

雨など降るものをかし

図書室から見える田んぼに水が張られました。そろそろ雨の季節ですね。ちょうど2年生が『枕草子』を勉強していますが、清少納言は夏の雨の夜が好きだったようです。雨といえば晴耕雨読、6月は本をたくさん読みましょう。

随筆を読もう

『枕草子』にちなんで、図書室では随筆の特集をしています。随筆が好きです、という中学生は少ないようですが、この機会に随筆を読んでみてはいかがでしょうか？



『陰翳(いんえい)礼讃(らいさん)』 谷崎潤一郎
昭和初期の文豪、谷崎潤一郎の名文中の名文、と言われる『陰翳礼讃』に、空気をとらえ、気配を撮ると称される写真家の大川裕弘の美しい写真を合わせた芸術本。日本人特有の暗がりやひそませる美を追求した名文は現代の私たちの心にも響き、西洋とは違う、日本独特の美意識にはっとさせられます。

『ボクと正義とアンパンマン』 やなせたかし

本書は国民的ヒーロー、アンパンマンの生みの親、やなせたかしさんの約30年前のエッセイを2022年、新装復刊したものです。「なんのために生まれて、なにをして生きるのか」という問いかけが幼い子どもが見るであろうアニメの主題歌にあります。作詞をしたのは原作者のやなせさん自身ですが、子どもに迎合することなく自身の思いを正面からぶつけてくれています。そんなやなせさんの哲学が文章の合間からにじみでてくるようなエッセイです。





『ひとりずもう』 さくらももこ

ちびまるこちゃんでおられるさくらももこさんは、エッセイの名手としても知られています。本書はさくらさんが中学生から、高校生の頃までの思い出を中心としたエッセイです。なんてことのない中学生の日常や恋から、やがて漫画家としての夢を追ひ、必死で取り組む頃の思いがユーモアのある文章で書かれています。

『跳びはねる思考』 東田直樹

筆者の東田さんは自閉症です。東田さんは他者との会話は非常に困難で、定型発達の人（いわゆる普通の人）からすれば、彼の日常は奇声を発したり、跳びはねているようにしか見えませんが、それには全て、彼なりの行動理由があるのです。東田さんは自分の考えを文字でなら伝えることができ、中学生の時に書いた『自閉症の僕が跳びはねる理由』は世界的なベストセラーになりました。本書はそれよりもさらに成長し、大人になった東田さんが日々感じることを書いています。



新着本・・・今回は読書感想文コンクール課題図書からのご案内



『ノクツドウオウライドウ』 佐藤まどか

靴の往来堂というオーダーメイド専門の靴屋の孫娘、夏希は靴作りが大好きだ。でも店を継ぐとはまだ決めていない。そんな頃、店にクラスメートの宗太が見習いになりたいとやって来る。宗太の祖父は往来堂のお得意様だったのだ。自分の居場所が奪われるような気がして夏希は落ち着かないが…



『希望のひとしずく』 キース・カラブレーゼ

アメリカの田舎町の中学生アーネストのおじいちゃんが死んだ。「屋根裏をかたづけてくれ」と言い残して。でもそこにあるのは古いおもちゃのようながらくたばかり。その頃、学校の授業で願いをかなえてくれるという古い井戸の伝説が話題になった。アーネストは導かれるように井戸の底へとたどりつき、地上から降ってくる声を耳にして……



司書のひとりごと 昨日の本棚から 『ある行旅死亡人の物語』 武田敦志

事実は小説より奇なり、を地で行くようなノンフィクションでした。新聞記者の武田さんはネタを探していて、数行の死亡記事に目を留めます。身元不明のある女性が現金 3400 万円を金庫に残しボロアパートで孤独死。住民登録のない名義の年金手帳、韓国のお札、北朝鮮を想起させるような星のついたペンダントと数字の書かれた紙、消えた貴重品、等々、実に謎めいた遺品ばかりで、興味を覚えた武田さんは警察でも突き止められなかった身元を調査し始めますが…。謎が謎を呼んだり、一気に明らかになったりと、ノンフィクションならではの迷走を重ねながら武田さんがたどりついた女性の人生とは…記者魂が生んだ傑作ルポに寝食を忘れて夢中になりました。